

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	国語	文学国語	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	『新編 文学国語』(大修館)	副教材 (出版社)	「セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習 三訂新版」(桐原書店)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、想像的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

日頃から読書を通じて積極的に文学作品に触れるようにしましょう。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点	
4	①オリエンテーション （使用教材、評価方法説明）	1	②【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思】文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	②文学の言葉を感じ取る ・虹の雌雄（蜂飼耳）	7		
5	③作家のストラテジーを読み解く ・少年という名前のメカ（松田青子）	8		
	④単元テスト	1		
6	⑤文学の想像力を捉える ・月火水木金土日（川上弘美）	12		
7	⑥近代の文章に価値を見いだす	9		
8	・永訣の朝（宮沢賢治）			
	⑦表現の意味を捉え直す ・物語もっと深読み教室（宮川健郎）			
	⑧単元テスト	14		③【知】人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ⑤／⑥【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 【思】作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ⑦【知】言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 【思】読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ⑨【知】文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 【思】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ⑩【知】文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 【思】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ⑪【知】情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【思】読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 【主】上記【知】【思】の取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
9	⑨心情の表現に読みひたる	1		
10	・山月記（中島敦）	1		
11	⑩言語文化の可能性を追求する	14		
12	・鞆（安部公房） ・ピクニックの準備（恩田陸）			
	⑪文学の普遍性① ・雨月物語一浅茅が宿（上田秋成）	14		
1	⑫空間を越える翻訳文学 ・星の王子さま（サン=テグジュベリ）	15		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	地理歴史	歴史総合	-	必修・必修・選択	2
科目の 目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする【知識及び技能】</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を粗野に課題を主体的に追求、解決使用とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての次各区などを深める。【学びに向かう力、人間性等】</p>				
教科書 (出版社)	歴史総合 みる・よみとく・考える (山川出版社)	副教材 (出版社)	歴史総合ノート みる・よみとく・考える (山川出版社)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	○	○
ワークシート		◎	◎	○
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1節 歴史と私たち 世界とつながる旅行の歴史 ～身近なものから歴史を考えてみよう～	4	○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史について歴史が叙述されていることを理解する。的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づき ○中学校の歴史的分野で学習した内容を基に、前近代の日本と世界のつながりについて振り返る。
5	2節 結びつく世界と日本の開国	6	18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。 18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築き、どのような経済発展をしていったのかについて理解する。
6	3節 国民国家と明治維新	9	国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。
7 8	4節 近代化と現代的な諸課題	9	植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 20世紀初期、帝国主義に対して人々はどのような態度を示し、アジア諸国はどのような動きを見せたのかについて理解する。 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。
9 10	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	10	国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
11	3節 経済危機と第二次世界大戦	6	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。
12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	10	自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 生活と文化に関する写真等から、国際秩序の変化や大衆化の歴史を振り返り、理解を深める。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
1	3節 世界秩序の変容と日本	5	アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。
1	4節 現代的な諸課題の形成と展望	5	科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数学	数学Ⅱ	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書(出版社)	最新 数学Ⅱ (数研出版)	副教材(出版社)	書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用 パラレルノート数学Ⅱ (数研出版)		
留意点	特になし		開講 予定人数	必修のため全員	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	関数関係に着目し、事象を的確に表してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「新課程 書き込み式シリーズ [基本～標準] 教科書傍用パラレルノート数学Ⅱ」を、授業や家庭学習で活用する。 ・2年次と3年次で教科書の内容を半分程度ずつ学習します。2年次で使用した教科書や副教材をそのまま使用するので、注意すること。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第4章 三角関数 第1節 三角関数	12	<p>【知】新しい角の概念の意味や三角関数の値の変化やグラフの特徴、三角関数の相互関係や加法定理・合成について理解している。</p> <p>【思】三角関数に関する様々な性質についての考察、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと、三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
5	第2節 加法定理	9	
6	【前期中間考査】	1	
7	第5章 指数関数と対数関数	17	<p>【知】指数の拡張と指数計算、指数関数の値の変化やグラフの特徴、および、対数の意味とその性質の理解、対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。</p> <p>【思】指数と対数を相互に関連付けて考察することや、指数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
8			
9	【前期期末考査】	1	
10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法	12	<p>【知】微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法について理解することができる。 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。</p> <p>【思】関数とその導関数との関係について考察することができる。 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
11	【後期中間考査】	1	
12	第2節 積分法	11	
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	理科	化学基礎		必履修・必修・選択	2
科目の目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。				
教科書(出版社)	新編 化学基礎 (数研出版)	副教材(出版社)	サンダイヤル 化学基礎の基本練習 (啓林館)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解できた。 科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。
思考・判断・表現	物質とその変化について、身につけた知識を用いて思考できた。 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。
主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けた。

(2) 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
観察・実験	◎	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

定期考査は年3回実施する

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	化学の特徴	2	
	第1編 物質の煌晟と化学結合	6	【知】混合物を分離する操作方法をあげることができた。代表的な同素体をあげることができた。物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができた。物理変化と化学変化の違いを理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	○物質の構成 ・混合物と純物質 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動		
5	○物質の構成粒子 ・原子とその構造 ・イオン ・元素の周期表	8	【知】原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解できた。イオンの化学式が正しく書け、化学式でかかれたイオンの名称がわかった。元素の典型・遷移・金属・非金属、陽性・陰性などの分布および同族元素について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
6	前期中間考査	1	
7	○粒子の結合	10	【知】イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式を書く方法を理解できた。さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができた。共有結合の結晶の構造やその性質の関係を理解できた。金属の特徴を理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
8	・イオン結合とイオンからなる物質 ・分子と共有結合 ・共有結合の結晶 ・金属結合と金属		
9	前期期末考査	1	
10	第2編 物質の変化	9	【知】原子量・分子量・式量の値を求めることができた。濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解できた。化学反応における、物質質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	○物質質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式と物質質量		
	○酸と塩基の反応 ・酸・塩基 ・水の電離と水溶液のpH ・中和反応と塩 ・中和滴定	14	【知】酸・塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解できた。水溶液中のH ⁺ の濃度をpHで表す方法を理解できた。身のまわりの物質の水溶液のpHを知る方法を身につけた。中和反応を化学反応式で表すことができた。酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解できた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
	後期中間考査	1	
11	○酸化還元反応	10	【知】電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解できた。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができた。金属のイオン化傾向を利用して、物質の変化を説明できた。簡単な電池をつくることができた。 【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
12	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤		
1	・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用		
	化学が拓く世界	2	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	2
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。 ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。 ・領域選択Ⅱ期とⅢ期は同一種目を選択することはできない ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	1	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、
	1「体づくり運動」	6	
	2「体育理論」	3	
5	3「球技<ネット型> （バレーボール）」 「球技<バレーボール型>ソフトボール」	10	「体育理論」 【知】豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる
6	4「球技<ネット型> （ソフトテニス）」 「球技<ネット型> （バドミントン）」	10	「球技<ゴール型>」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
7			「球技<ネット型>」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
8	5「領域選択Ⅰ期」 ・球技<ネット型> （バレーボール）	10	
9	・球技<バレーボール型> （ソフトボール） ・陸上競技		「球技<バレーボール型>」 【知】状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
10	6「領域選択Ⅱ期」 ・球技<ゴール型> （バスケットボール） ・球技<ネット型> （バドミントン） ・球技<ネット型> （卓球）	10	「武道（柔道）」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている
11	・武道（柔道） ・「ダンス」		「ダンス」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している
12	7「領域選択Ⅲ期」 ・球技<ゴール型> （バスケットボール） ・球技<ネット型> （バドミントン） ・球技<ネット型> （卓球） ・武道（柔道） ・「ダンス」	10	
1			※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる
2	8「体育理論」	3	※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	英語	英語コミュニケーションⅡ	-	必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することや概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	All Aboard! English Communication Ⅱ (東京書籍)	副教材 (出版社)	All Aboard Ⅱ WORKBOOK Ⅱ (東京書籍) クラウン チャンクで英単語 Basic(三省堂)		
留意点	2学年「英語コミュニケーションⅡ」から継続履修です。			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト リスニングテスト 等	◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等	○	◎	◎
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	Lesson 6	8	<p>(知) 動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味を理解している。また、京野菜について学んだり、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 伝統野菜に関して書かれた文章について考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 伝統野菜に関して書かれた文章について、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
5	Word Box 3	1	仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。
6	前期中間考査 Lesson 7	1 8	<p>(知) 関係副詞 where, when を用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
7	Communication 2	2	海外旅行先の空港で入国審査の手続きをするにあたり、旅行の目的や滞在日数などを申告する仕方を理解している。
8	Getting the Necessary Information	2	目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしようとしている。
9	前期期末考査 Lesson 8	1 8	<p>(知) 知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
10	文法のまとめ 3 Lesson 9	2 8	<p>(知) 使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
11	エッセイライティング	3	興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセイを書いている。
12	Extra Target 2 後期中間考査 Lesson 10	2 1 8	<p>(知) 仮定法過去 (I wish+過去形の文) を用いた文の形・意味を理解している。ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
1	文法のまとめ 4 Reading 2	2 5	自分たちで結末を考えた、英語で書かれた Bear's Pie の内容を理解している。また、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わるように、朗読する知識を身につけている。
	Word Box 5	2	自分が何時ごろに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、適切な発表を行っている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	数学	数学B	I	必履修・必修・ <u>選択</u>	2
科目の目標	<p>(1) 数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の主わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする知能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し思察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に思察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って思察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に思え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って思察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
教科書(出版社)	改訂版 新編 数学B (数研出版)	副教材 (出版社)	改訂版 教科書傍用 3 TRIAL 数学B (数研出版)		
留意点	数学 I A の復習を行うこと。			開講 予定人数	40

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・定期思査 ・単元テスト ・小テスト ・発言、発表
思考・判断・表現	・定期思査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート ・発言、発表
主体的に学習に取り組む態度	・授業への取り組み姿勢（グループワーク、振り返り） ・課題

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期思査・小テスト	◎	◎	
ワークシート	○	○	◎
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・4年制大学への受験を念頭に置き、数学Bの理解を深める。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数列	3	数列の定義、表記について理解している。〔知〕 数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。〔主〕
	第1節 等差数列と等比数列		数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を思察できる。〔思〕
5	1 数列と一般項		
	2 等差数列	3	等差数列の項を書き並べて、隣接する項の思察ができる。〔思〕 等差数列の公差、一般項などを理解している。〔知〕 初項と公差を文字で表して、数列の一般項を決定できる。〔知〕
	3 等差数列の和	4	等差数列の和の公式を利用して、数列の和が求められる。〔知〕 等差数列の和の最大値を求めることができる。〔知〕
6	4 等比数列	3	等比数列の項を書き並べて、隣接する項の思察ができる。〔思〕 等比数列の公比、一般項などを理解している。〔知〕 初項と公比を文字で表して、数列の一般項を決定できる。〔知〕
	5 等比数列の和	4	等比数列の和の公式を、利用して数列の和が求められる。〔知〕 等比数列の和の値から一般項を求めることができる。〔知〕
	第2節 いろいろな数列	3	記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。〔知〕 記号 Σ の計算を行うことができる。〔思〕
7	6 和の記号 Σ	4	数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。〔思〕 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。〔知〕 和 S_n と第 n 項 a_n を理解し、一般項が求められる。〔知〕
	7 階差数列		
8	8 いろいろな数列の和	3	$f(k+1)-f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。〔主〕 和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。〔知〕
9	第3節 漸化式と数学的帰納法	4	初項と漸化式で数列を定義できることを理解している。〔思〕 漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。〔知〕
	9 漸化式		初項と漸化式から数列の一般項が求められる。〔知〕
10	10 数学的帰納法	3	数学的帰納法により、数式を証明しようとする。〔主〕 自然数 n に関する証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。〔思〕
11	第2章 統計的な推測	6	確率分布について積極的に思察しようとする。〔主〕 試行の結果を確率分布で表す意味がとらえられている。〔思〕 確率分布を計算式や分布表を用いて表すことができる。〔知〕
	第1節 確率分布		
12	1 確率変数と確率分布		
	2 確率変数の期待値と分散	6	期待値、分散、標準偏差を求めることができる。〔知〕 確率分布の特徴を思察することができる。〔思〕 期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を活用できる。〔知〕
	3 確率変数の和と積	6	確率変数の和の期待値を求めることができる。〔知〕 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。〔思〕 事象の独立・従属を、等式を用いて表すことができる。〔知〕
1	4 二項分布	4	二項分布に興味をもち、具体的について思察する。〔主〕 反復試行の結果を二項分布を用いて表すことができる。〔知〕 確率変数の期待値や分散を求めることができる。〔知〕
	5 正規分布	4	正規分布について積極的に思察しようとする。〔主〕 日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を利用できる。〔知〕
	第2節 統計的な推測	2	母集団や標本の特徴を理解しようとする。〔主〕
	6 母集団と標本		
1	7 標本平均の分布	1	大数の法則を理解している。〔知〕
	8 推定	1	推定や信頼区間の考え方がわかる。〔思〕

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	電気	通信技術		必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>①知識及び技術 通信技術について通信機器の機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 通信技術に関する課題を発見し、技術として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 通信技術を通して情報通信の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	通信技術 (実教出版)	副教材 (出版社)	なし		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	通信技術について通信機器の機能や特性を理解し、関連技術が身についている。
思考・判断・表現	通信技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	通信技術を通して情報通信の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 5	第1章 有線通信	20	【知】有線通信について有線通信回線を用いたアナログ及びデジタル通信に使用されているシステムを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思】有線の伝送路を活用した通信システムに着目して、優先通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】有線通信について自ら学び、技術の進展に対応した有線通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
6 7	【前期中間考査】	1	
8	第2章 無線通信	17	【知】無線通信について電波を用いたアナログ及びデジタル通信に使用されているシステムを踏まえて理解している。 【思】電波を活用した通信システムに着目して、無線通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】無線通信について自ら学び、技術の進展に対応した無線通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
9 10	【前期期末考査】	1	
11 12	第3章 画像通信	11	【知】画像通信について通信データを送受信する通信システムを踏まえて理解している。 【思】静止画像や動画画像などを送受信する通信システムに着目して、画像通信の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】画像通信について自ら学び、技術の進展に対応した画像通信の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
	【後期中間考査】	1	
	第4章 通信装置の入出力機器	6	【知】通信装置の入出力機器について情報のデジタル化を踏まえて理解している。 【思】通信装置の入出力機器を用いたシステムに着目して、通信機器の入出力機器の利用に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】通信装置の入出力機器について自ら学び、技術の進展に対応した通信機器の活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
1	第5章 通信に関する法規	3	【知】通信に関する法規について法規の目的と概要を踏まえて理解している。 【思】事業者や利用者が円滑な通信を行うことに着目して、通信に関する法規に関する課題を見出すとともに解決策を考えることができる。 【主】通信に関する法規について自ら学び、法令を遵守して円滑な電気通信に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	工業環境技術	選択	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目標	<p>①知識及び技能 環境技術について工業の各分野における産業と環境との関係や環境の保全技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 環境技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 環境技術を用いて持続可能な社会を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 （出版社）	工業環境技術（実教出版）	副教材 （出版社）	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査を年回実施する。 ・レポートや課題等の取り組み・提出状況などに留意する。 			開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。
思考・判断・表現	身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。
主体的に学習に取り組む態度	環境問題や環境保全技術に関心を持ち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
ワークシート		◎	◎	◎
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	「工業環境技術」を学ぶにあたって	3	
5	第1章 地球と人類 1節 地球の成り立ち 2節 地球上の資源 3節 世界の資源と人間	8	【知】地球構造と循環や資源特徴と問題点、人口と資源消費の関連を把握することができる。 【思】炭素や水の循環の影響を説明し、資源の社会的影響と保護の必要性を説明することができる。また、経済活動が資源消費に与える影響や日本の資源利用の問題点を提起することができる。 【主】地球構造や物質循環を学習し、資源の社会的価値や問題の調査を通して理解し、他の科目の知識を活用して探求しようとしている。
6	第2章 社会と環境 1節 社会と環境の歴史 2節 日本の環境政策	8	【知】日本の公害問題と国際的な環境対策を理解している。環境法や影響評価、保全手法、関係者の役割についての知識を身につけている。 【思】公害や環境問題の背景と拡大経緯を検証し、国際的取り組みの重要性を説明することができる。また、日本の環境政策や役割について説明することができる。 【主】地球環境の歴史を整理しながら学習に取り組もうとしている。法律関係やアセスメント手順をフローチャートで学習しようとしている。
7	第3章 地球温暖化とエネルギー 1節 地球温暖化とその影響 2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策	8	【知】地球温暖化の原因と対策を理解し、将来の影響をグラフで読み取ることができる。エネルギー供給と消費関係や効率的な利用技術を図に表現することができる。 【思】地球温暖化のシナリオと予測の関係を考察し、社会的・生物学的影響と対策を検討できる。各国の発電構成からエネルギー事情を推察し、利用技術の長所と短所を判断できる。 【主】地球温暖化の危機を身近に感じ、情報を取捨選択し学習を進めている。発電方法やエネルギー技術に興味を持ち、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。
8	第4章 廃棄物とリサイクル 1節 廃棄物の現状	8	【知】廃棄物の分類や排出量、不法投棄の実態を把握し、分別から処理・処分までの流れや3R、ライフサイクルに関する知識を身につけている。
9	2節 廃棄物の処理技術と管理	8	【思】経済活動に伴うごみ問題を考察し、処理の必要性や問題点を説明することができる。処理技術と環境対策を理解し、抑制と3Rから適切な処分方法を判断することができる。 【主】ごみ問題に関心を持ち、解決に向けて学習することができる。処理方法や制度の理解に努め、効果的な学習方法を模索することができる。
10	第5章 地域環境の保全 1節 大気汚染の現状と対策 2節 水質汚染の現状と対策	10	【知】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について理解している。
11	3節 土壌・地下水汚染の現状と対策 4節 騒音・振動・臭気の現状と対策	10	【思】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について考察・判断することができる。 【主】大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。
12	第6章 産業と環境 1節 産業界の環境管理の取り組み 2節 環境リスクと安全管理の取り組み 3節 省エネルギーの取り組み 4節 再生可能エネルギーの取り組み 5節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み	10	【知】環境マネジメントやライフサイクル、安全データ読取、省エネ・再生エネ理解、リサイクル法・フロン問題について理解している。 【思】企業の環境対応とリスク管理、省エネと再生可能エネルギー、廃棄物削減とフロン排出対策を検討することができる。 【主】企業の環境対応を調査し、リスク削減方法を模索。エネルギー節約と再生可能エネルギーのメリットを学び、環境保全に関連付けながら学ぼうとしている。
1	第7章 都市・生活と環境 1節 都市システムと環境 2節 住環境と健康 3節 自然環境と防災・減災 4節 環境保全に向けたさまざまな取り組み	7	【知】環境問題の理解と対策について学び、ヒートアイランドや水の利用、健康対策、防災意識を高め、まちづくりやエネルギー削減の取り組みについて理解している。 【思】エネルギー消費とヒートアイランド、水処理、省エネルギーと環境汚染対について説明することができる。健康影響、省エネ住宅、防災、環境保全を研究・発表することができる。 【主】エネルギーと水のシステム理解し、地球温暖化や住環境に関する知識を再活用しようとしている。防災意識高め、環境保全について学習意欲を高めようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	電気・建築	課題研究		必履修・必修・選択	3
科目の 目標	<p>①知識及び技術 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
学習観察	◎	◎	◎
レポート		◎	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1. 興味・関心に応じた課題の設定	6	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解する。 【思】工業に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
5	2. 個人又はグループでの調査・研究・実験	21	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
6	3. 課題の検討・再設定	21	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
7			
8	4. 産業現場等における実習	21	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
9			
10	5. 作品製作・製品開発	21	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 【思】工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
11			
12			
1	6. 研究結果の報告	6	【知】工業の各分野について体系的・系統的に理解する。 【思】工業に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 【主】工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	電気	電気実習		必履修・ 必修 ・選択	3
科目の 目標	<p>①知識及び技術 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
学習観察	◎	◎	◎
レポート		◎	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○電気実習（電子回路） パルス回路に関する実験Ⅰ	60	【知】 各種電子回路の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電子回路に関心を持ち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
5	パルス回路に関する実験Ⅱ		
6	オペアンプに関する実験Ⅰ		
6	オペアンプに関する実験Ⅱ		
7	○電気実習（電気機器） 電気動力計による三相誘導電動機の負荷特性		
8	○電気実習（電力技術） 過電流継電器の時限特性 高電圧実験 外線工事		
9	模擬送電線路の特性	30	【知】 各種電力技術の特性・利用を理解している。 【思】 実験結果より考察・分析ができています。 【主】 電力技術に関心を持ち、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
10	○電気実習（電気制御） シーケンス制御（基本）Ⅰ シーケンス制御（基本）Ⅱ シーケンサー1（基本回路） シーケンサー2（信号機制御）		
11	○電気実習（製作） 直流安定化電源の製作（USB電源） Ⅰ 直流安定化電源の製作（USB電源） Ⅱ		
12	ワイヤレスマイクの製作Ⅰ ワイヤレスマイクの製作Ⅱ その他製作実習		
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（電気）	電気製図		必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>①知識及び技術 工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書（出版社）	電気製図（実教出版）	副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

（1）評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組もうとしている。

（2）評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
提出物	○	○	
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	第1章 製図の基本	35	<p>【知】工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思】製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。</p> <p>【主】工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
	1 製図と規格		
	2 製図用器具・材料		
	3 線と文字		
	4 平面図形		
	5 投影図		
	6 線の用法		
	7 図形の表し方		
	第8章 CAD製図	55	<p>【知】工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>【思】製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。</p> <p>【主】工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
	1 基本操作		
	2 線・円の作図方法		
	3 指定寸法の図の作図方法		
	4 図面の印刷方法		
	5 家具の作図		
	6 平面図の作図		
	7 文字の記入		
	8 寸法の作図		
	9 レイヤの操作方法		
	10 各種課題の作図		
	11、電気屋内配線図の作図		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	電気	電力技術（送変電）		必履修・ 必修 ・選択	3
科目の 目 標	<p>①知識及び技術 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>②思考・判断・表現 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に取り組む態度 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	電力技術1 (実教出版)	副教材 (出版社)	なし		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技術	電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につける。
思考・判断・表現	電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につける。
主体的に学習に取り組む態度	電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点	
4	第1章 発電 1. エネルギー資源と電力	25	【知】発電について環境保全、省資源及び省エネルギーに配慮した発電方法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思】発電方式の概要と特徴や発電の原理、方法、構成及び特性に着目して、発電に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 【主】発電について自ら学び、エネルギーや資源の効率的な電気エネルギーへの変換に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
5	2. 水力発電 3. 火力発電 4. 原子力発電 5. 再生可能エネルギーによる発電 6. その他のエネルギーによる発電 【前期中間考査】			
6	第2章 送電 1. 送電方式			23
7	2. 送電線路			
8	3. 送電と変電の運用			
9	【前期期末考査】			
10	第3章 配電 1. 配電システムの構成	22	【知】配電について方式や構成などを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思】配電に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 【主】配電について自ら学び、電力システムの構成と運用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
11	2. 配電線路の電気的特性			
12	【後期中間考査】 第4章 屋内配線 1. 自家用電気設備 2. 屋内配線	10	【知】屋内配線について配線図記号や各種工事を理解すると共に、関連する技術を身につけることができる。 【思】屋内配線の安全性や利便性について考察し、各種結線方式の違いを検証し、改善することができる。 【主】屋内配線について自ら学び、回路方式や配線器具などの運用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
1	第5章 電気に関する法規 1. 電気事業法 2. その他の電気関係法規			10

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	区 分	単位数
3学年	電気	電力応用	必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目 標	<p>①知識及び技能 電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>			
教科書 (出版社)	電力技術2 (実教出版)	副教材 (出版社)		
留意点			開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	電力技術について電力の供給と利用技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	電力の供給と利用技術に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第6章 照明	1 2	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。
5	1. 光と放射エネルギー 2. 光の基本量と測定法 3. 光源 4. 照明設計 【前期中間考査】	1	
6	第7章 電気加熱（電熱）	6	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。
7	1. 電熱の基礎 2. 各種の電熱装置 3. 電気溶接	8	
8	第8章 電力の制御	1 4	【知】電力の制御についてエネルギーと制御技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電気エネルギーの制御の原理、制御系の構成に着目して、電力の制御に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の制御について自ら学び、工業生産の省力化や自動化への活用に主体的かつ協働的に学習している。
9	1. 制御の概要 2. シーケンス制御 3. フィードバック制御 4. コンピュータと制御 5. 制御の活用事例 【前期期末考査】	1	
10	第9章 電気化学	5	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。
11	1. 電池 2. 表面処理 3. 電解化学工業	1 4	
11	第10章 電気鉄道	1 4	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。
12	1. 電気鉄道の特徴と方式 2. 鉄道線路 3. 電気車 4. 信号と保安 5. 特殊鉄道 【後期中間考査】	1	
12	第11章 さまざまな電力応用	5	【知】電力の利用について電力機器と工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 【思】電力機器の原理に着目して、電力の利用に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し、改善できる。 【主】電力の利用について自ら学び、電力の安全で効率的な利用に主体的かつ協働的に学習している。
1	1. ヒートポンプ 2. 加熱調理器 3. 静電気現象の応用 4. 超音波とその応用 5. 自動車への応用	2	
2			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築実習	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	建築の各分野における工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行なうことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り身に付ける。				
教科書（出版社）		副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	建築分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	建築分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
授業や課題への取組	◎	◎	◎
実習日報等	○	○	◎
授業態度	◎	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。 授業ごとに各観点到に沿った評価を行い、課題終了時に総合的な評価を行います。 安全管理の徹底、手順の理解、班員との協力を特に留意する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
	○光波測量実習	15	【知】 光波測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】 測量機器の使用方法和得られたデータを判断できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	○工事測量実習	12	【知】 工事測量の目的と危機の取扱いについて理解している。 【思】 安全かつ効率良く作業をするために判断し実践できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
7	○木材加工実習	15	【知】 各種工作機械を正しく使用することができる。 【思】 各種工作機械を正しく選定することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	○鉄筋コンクリート実習	21	【知】 部材名と作業工程を理解し作業進められる。 【思】 周囲の状況を判断し、協働的に作業に取組むことができる。 【主】 実習に主体的かつ効率的に取組もうとしている。
11	○木材加工実習（自主設定課題）	30	【知】 作品製作において必要な加工をすることができる。 【思】 計画的に作業を行い、必要な加工を判断することができる。 【主】 実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築実習	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>建築に関する技術を実際の作業を通じて総合的に習得させ、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>(1) 建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書（出版社）		副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	建築における基礎的な加工技術や生産技術などを実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	建築における技術に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき、建築技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	建築に関する技術の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

評価方法 \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業や課題への取組	◎	◎	◎
実習日報等	○	○	◎
授業態度	◎	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。 授業ごとに各観点到った評価を行い、課題終了時に総合的な評価を行います。 安全管理の徹底、手順の理解、班員との協力を特に留意する。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
	○光波測量実習	15	【知】 光波測量の目的と機器の取扱いについて理解している。 【思】 測量機器の使用方法与得られたデータを判断できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
6	○工事測量実習	12	【知】 工事測量の目的と危機の取扱いについて理解している。 【思】 安全かつ効率良く作業をするために判断し実践できる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
7	○木材加工実習	15	【知】 各種工作機械を正しく使用することができる。 【思】 各種工作機械を正しく選定することができる。 【主】 実習に主体的かつ協働的に取組もうとしている。
9	○鉄筋コンクリート実習	21	【知】 部材名と作業工程を理解し作業進められる。 【思】 周囲の状況を判断し、協働的に作業に取組むことができる。 【主】 実習に主体的かつ効率的に取組もうとしている。
11	○木材加工実習（自主設定課題）	30	【知】 作品製作において必要な加工をすることができる。 【思】 計画的に作業を行い、必要な加工を判断することができる。 【主】 実習に主体的かつ意欲的に取組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築製図	-	必履修・必修・選択	3
科目の 目標	製図に関する日本産業規格及び建築製図に関する知識と技術を習得させ、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。				
教科書 (出版社)	建築設計製図（実教出版）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	CADの基本操作から応用操作の方法、作図する上での知識と技術を深める。
思考・判断・表現	図面の表現方法や意思伝達の方法などについての態度と理解を深める。
主体的に学習に取り組む態度	製図を通して、建築における総合的な興味や関心を育む。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
授業や課題への取組	○		○
作品の精度	○	○	
提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

- 定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
5	○木造住宅の自由設計	15	<p>【知】木造住宅における主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
6	○高校生デザインコンクールへの作品提出	33	<p>【知】テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
7			
8			
9	○卒業設計コンクールへの作品提出	45	<p>【知】テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
10			
11			
12			
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築製図	-	必履修・必修・選択	3
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 設計図に関する課題を発見し、建築に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書（出版社）	建築設計製図（実教出版）	副教材（出版社）			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	建築製図について日本産業規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	図面の表現方法や意思伝達の方法などについての態度と理解を深める。
主体的に学習に取り組む態度	建築おける図面の作成及び図面から建築情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
レポート・製作物	○	○	○
授業への取組	○	○	○
課題の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

- ・定期考査は行わないため、基本的に課題への取組状況ならびに提出状況が成績に大きく反映されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	3	
5	○木造住宅の自由設計	15	<p>【知】木造住宅における主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
6	○高校生デザインコンクールへの作品提出	33	<p>【知】テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
7			
8			
9	○卒業設計コンクールへの作品提出	45	<p>【知】テーマに沿った主要な材料や構造に関する知識から設計図を作成できる。また建築法規や基準についても十分に理解している。</p> <p>【思】独自のアイデアやデザインを考案し、その実現可能性を論理的に検討でき、複雑な設計課題に対して創造的で効果的な解決策を見出し、それを適切にCADを用いて表現できる。</p> <p>【主】他者とのコミュニケーションを通じて自分のアイデアや意見を明確に表現できるだけでなく、自ら積極的に調査や学習を行い、課題に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
10			
11			
12			
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築施工	-	必修・ 必修 ・選択	3
科目の 目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	建築施工（実教出版）	副教材 (出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術が身に付いている。
思考・判断・表現	建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査	○	○	
課題・授業への取組		○	○
課題等の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	「建築施工」を学ぶにあたって 第1章 工事の準備 1節 地盤と敷地の調査・確認 2節 仮設工事	1 6	【知】工事の準備に関する基礎的な知識と技術を身につけ、建築敷地の調査、測量の方法の意義や役割を理解している。 【思】工事の準備に関する基礎的な知識と技術をもとに、敷地調査、測量方法を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】工事の準備の基礎的な知識と技術について関心をもち、建築敷地の調査、測量の方法の習得に向けて意欲的に取り組み、実際に活用しようとする態度を身につけている。
5	前期中間考査	1	
6	第2章 地面から下の工事 一 土工事および杭・地業工事 1節 土工事および杭・地業工事の種類と流れ 2節 土工事・山留め 3節 杭工事 4節 地業工事	9	【知】地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術を身につけ、土工事および杭・地業工事の意義や役割を理解している。 【思】地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、土工事および杭・地業工事の概要を思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】地面から下の工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、土工事および杭・地業工事の概要の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
7	第3章 木構造の工事 1節 基礎 2節 在来工法の骨組 3節 枠組壁工法の躯体 4節 外部仕上げ 5節 内部仕上げ	14	【知】木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術を身につけ基礎工事の工法の意義や役割を理解している。 【思】木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術をもとに、基礎工事の工法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】木構造の基礎に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、基礎工事の工法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
8	第4章 鉄筋コンクリート構造の工事 1節 鉄筋コンクリート工事 2節 基礎 3節 躯体 4節 外部仕上げ 5節 内部仕上げ	16	【知】鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術を身につけ、その工事の意義や役割を理解している。 【思】鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術をもとに、その工事について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】鉄筋コンクリート構造の鉄筋コンクリート工事に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その工事の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
9	前期末考査 第5章 鋼構造の工事 1節 基礎 2節 骨組（柱と梁） 3節 スラブ 4節 耐火被覆 5節 仕上げ	1 15	【知】鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術を身につけ基礎工事の工法の意義や役割を理解している。 【思】鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術をもとに、基礎工事の工法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】鋼構造の基礎に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、基礎工事の工法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
10	第6章 設備の工事 1節 設備工事の種類 2節 設備工事に必要な資格 3節 設備工事の工程	8	【知】設備工事の種類に関する基礎的な知識と技術を身につけ、設備工事の意義や役割を理解している。 【思】設備工事の種類に関する基礎的な知識と技術をもとに、設備工事の意義や役割を理解している。 【主】建築物の保全に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、保全の分類と考え方および保全の方法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
11	第7章 建築物のライフサイクルと環境への配慮 1節 建築物のライフサイクル 2節 解体工事 3節 環境保全	8	【知】建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術を身につけ、保全の分類と考え方および保全の方法の意義や役割を理解している。 【思】建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術をもとに、保全の分類と考え方および保全の方法について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】建築物のライフサイクルと、建築物の保全に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、保全の分類と考え方および保全の方法の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
	後期中間考査	1	
12	第8章 建築の業務 1節 工事契約 2節 現場組織の編成 3節 施工計画と施工管理 4節 建築業務とICT（情報通信技術）	8	【知】工事契約に関する基礎的な知識と技術を身につけ、発注方式、契約方式、契約内容の意義や役割を理解している。 【思】工事契約に関する基礎的な知識と技術をもとに、発注方式、契約方式、契約内容について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】工事契約に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、発注方式、契約方式、契約内容の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。
1	第9章 建築工事費の算出—積算— 1節 積算の基本事項 2節 工事費の構成 3節 積算の方法	8	【知】積算に関する基礎的な知識と技術を身につけ、積算の分類と数量・歩掛り・単価などの基本事項の意義や役割を理解している。 【思】積算に関する基礎的な知識と技術をもとに、積算の分類と数量・歩掛り・単価などの基本事項について思考するとともに、実際に活用するさいに適切な判断ができる能力を身につけている。 【主】積算に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、積算の分類と数量・歩掛り・単価などの基本事項の習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身につけている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	工業（建築）	建築法規	-	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画、設計、施工及び管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解できるようにする。 (2) 法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力を養う。 (3) 安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書（出版社）	建築法規（実教出版）	副教材（出版社）	建築基準法関係法令集（建築資料研究社）		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解できている
思考・判断・表現	法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力が身に付いている。
主体的に学習に取り組む態度	安全で安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査	○	○	
課題・授業への取組	○	○	○
課題等の提出状況		○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	「建築法規」を学ぶにあたって		
	第1章 建築法規のあらまし	11	「知識・技能」 ・建築法規を包括的に学習し、建築生産に役立つ実践的な知識を身につ
5	1 建築法規の起源		け、建築法規に関する知識を建築物の設計や施工にかかわる業務に活用
	2 建築法規の意義		できる。
	3 法規の体系と建築基準法の構成		
	4 建築基準法の基本用語		「思考・判断・表現」
6	第2章 個々の建築物にかかわる規定	13	・建築法規の役割について思考を深め、種々の事例に対して知識・技能
	1 一般構造・建築設備についての規定		を生かして適切に判断し、建築の計画・設計・施工などの学習において
7	2 構造強度についての規定		的確に表現できる。
	3 防火と避難についての規定		「主体的に学習に取り組む態度」
8	第3章 良好な都市環境をつくるための規定	22	・建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建
9	1 都市計画法と建築基準法		築法規の必要性や諸問題などについて幅広く関心をもち、主体的に学習
	2 土地利用		に取り組んでいる。
	3 道路と敷地		
	4 密度に関する規定		
	5 形態に関する規定		
	6 良好なまちづくり		
10	第4章 手続きなどの規定	11	
	1 手続きのあらまし		
	2 手続きに関する機関		
	3 着工前の手続き		
	4 工事中の手続き		
11	5 使用中の手続き		
	6 違反建築物などに対する措置		
	7 その他の制度		
12	第5章 各種の関係法規		
	1 設計と工事の段階にかかわる法規	7	
	2 良好な建築を促進する法規		
1	3 その他の法規		
		計 70	